

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 機能的人工染色体の設計と利用のための革新的研究
2. 研究代表者： 白髭 克彦（東京大学定量生命科学研究所 教授／所長）
3. 中間評価結果

エンハンソームの試験管内再構築は興味深く、かつ重要な実験系である。コヒーシンのエンハンサーにおける役割（polIII エロンゲーションへの寄与）について革新的な発見が生まれ始めている。一方で、長鎖 DNA の細胞導入法開発（長鎖 DNA のクロマチン化や細胞核のリポソームへの封入系の開発）については、プロタミンの使用などで前進を見せているが難航しており、遅延が見られる。現在計画のボトルネックになっているのは細胞核作製とリポソーム封入の技術開発の方にあるようにも見受けられる。この部分を強くする方策を考えるべきである。当初計画通りの目標を維持することでチャレンジングな課題を達成することを期待したい。問題点として、グループ間の相互作用が乏しいことにより、個別の研究の集まりになってしまっていることが挙げられる。研究進展のためには、研究代表者がリーダーシップを発揮し、グループ間で行う meeting や人材交流など積極的な組織運営を行う必要がある。

以 上